

2019 SUGOチャンピオンカップレースシリーズ F4選手権 JAF菅生スーパーFJ選手権 JAFもてぎ・菅生ツーリングカー選手権 [JAF公認No.2019-6003]

開催日：5月18～19日 開催場所：スポーツランドSUGO 格式：準国内 主催：(株)菅生 [団体登録No.公認04001]、SSC [クラブ登録No.公認04002]

2019年JAF菅生サーキットトライアル選手権第1戦 [JAF公認No.2019-6121]

開催日：5月19日 開催場所：スポーツランドSUGO 格式：準国内 主催：(株)菅生 [団体登録No.公認04001]、SSC [クラブ登録No.公認04002]

レポート／秦直之 フォト／石原康

息詰まるホットバトルが続いたFIT
1.5チャレンジカップは寺岡亮選手
がトップチェッカーを受けた。



寺岡亮選手が最終ラップまで続いたFIT首位攻防戦を制す

スポーツランドSUGOを舞台に、SUGOチャンピオンレース第2戦が5月18～19日に開催された。この週末は天候に恵まれ、終始ドライコンディションでの戦いとなった。

F4は今季初の2レース開催。開幕戦を制した佐藤蓮選手が引き続き参戦、予選ではひとり1分22秒台をマークしてポールポジションを獲得した。「SUGOは得意なコースですし、

(2番手とは)1秒差があるので、ストールさえしなければ(苦笑)、10何秒ぶっちぎります」と佐藤選手。その佐藤選手同様、FIA-F4にも参戦中の三宅淳詞選手も出場したが、予選開始早々、スイッチ系のトラブルに見舞われてタイムを残せず。最後尾からどこまで順位を上げてくるか注目された。

第2戦の決勝では、スタートからの1周だけで佐藤選手は、予選4番手からふたつ順位を上

げた太田達也選手に2秒4の差をつける。一方、三宅選手も5番手に浮上。その後も佐藤選手は逃げ続け、そして7周目には三宅選手も2番手に。その時点での差は13秒ほど。だが、追い上げにタイヤを使ってしまった三宅選手には、もはや差を詰める余裕はなく……。最終ラップの1コーナーで三宅選手がオーバーシュートするハプニングはあったものの、公言通り、13秒差での圧勝となった。「スタートが良く



F4選手権／1. 第3戦でF4初優勝を飾った三宅淳詞選手。2. 第2戦は佐藤蓮選手がポール・トゥ・ウィン。3. 第3戦で4位獲得の徳升広平選手。4. 第2戦で4位入賞の三浦勝選手。5. 2戦連続で3位入賞のハンマー伊澤選手。



6. スーパー FJは山陰一選手が初優勝。7. ロードスターカップ第2戦は和光博紀選手がトップチェッカーを受けた。8. ヴィッツレース東北シリーズ第1戦はCandy竹川選手が初優勝。9. 86/BRZレースプロフェッショナルシリーズは阪口良平選手が優勝。10. 86/BRZレースエキスパートクラスでは松井宏太選手が優勝。11. 6/BRZレースオープンクラスでは安藤正明選手が優勝した。12. FITで2位入賞の海老澤紳一選手。13. FITの3位攻防戦を制した安井亮平選手。14. ヴィッツで2位入賞のデバマン石渡選手。15. S-FJで2位入賞の前田大道選手。16. 谷口信輝選手は86/BRZプロシリーズで2位獲得。17. 同エキスパートクラスで2位入賞の水野大選手。18. 同オープンクラスで2位入賞の佐藤純一選手。19. ロードスターカップ総合2位の川崎俊英選手はNA6クラスで優勝。20. ロードスターカップNA6クラス2位の大友裕一郎選手。21. 同NB8クラスで2位の阿部剛選手。22. 同NA8クラス優勝の樋口豊選手。23. S-FJで3位入賞の森准平選手。24. 橋本元選手はヴィッツで3位入賞。25. 86/BRZオープンで3位の志賀俊方選手。26. 同エキスパートで3位は橋本洋平選手。27. 同プロシリーズで3位に入った近藤翼選手。

て、最後に飛び出さなければ、もう少し広げられましたね」と佐藤選手。3位はハンマー伊澤選手が獲得した。

第3戦のグリッドは、第2戦のベストタイム順に決められ、ポールは引き続き佐藤選手で、2番手は三宅選手。対決に期待がかかるも、佐藤選手はエンジンスターールで出遅れてしまう。トップに立った三宅選手は、そのまま逃げ続けるが、最後尾まで落ちた佐藤選手が7周目にハンマー選手をかわして2番手に上がると、最大8秒7あった間隔が徐々に詰まっていく。2秒を

切るまでに佐藤選手に迫られた三宅選手だったが、辛くも逃げ切ってF4初優勝。「スタートが決まって良かったです。ただ、僕のペースが良くなかったので、素直に喜べないというか。(佐藤選手との)対決もなかったし」とは、間違いなく本音のはずだ。3位は2戦連続でハンマー選手が獲得した。

スーパー FJでは、開幕戦のウィナー前田大道選手を僅差で従え、デビュー2戦目の山陰一選手がポールポジションを獲得。決勝でも山陰選手は、前田選手を封じ込む。9周目によく前に出た前田選手だったが、10周目の1コーナーで抜き返されたばかりか、馬の背コーナーで痛恨のスピも。これで山陰選手が逃げ切り、初優勝を飾ることとなった。「ずっとプレッシャーを感じた、すごく長いレースでした」と山陰選手。

地方選手権として、6戦のうち2戦がもてぎを離れ、SUGOで開催するFIT 1.5チャレンジカップは、「ぶっつけ本番で変えたセットが、うまくいきました」と語る寺岡亮選手がポールポジション。決勝では、予選4番手から絶妙のダッシュを見せた海老澤紳一選手と、まさに死闘を繰り広げた。終始コンマ差での戦いながら、逃げ切った寺岡選手は「ドライバーとしての質は海老澤さんの方が1枚も2枚も上ですから、大きなミスをしたくない。でも、それがすべてでした」と語っていた。3位は安井亮選手。

ロードスターカップでも、ポールシッターの川崎俊英選手を中心に、激しいトップ争いが繰り広げられた。当初は太田裕一郎選手との一騎打ちだったが、やがて和光博紀選手も加わり、三つ巴の戦いに。勝負が決したのは、最終ラッ



サーキットトライアル／28.総合優勝を飾ったB6クラスの原勝人選手。29. B6クラスで2位獲得の熊谷秀明選手。30. ロータスエリーゼの森田正穂選手はB5クラスで2位。31. デミオの中澤伸幸選手はB2クラスで2位獲得。32. 村山達也選手はB1クラス2位入賞。33. 32 スカイラインの門馬勇人選手がB5クラスを制した。34. B1クラスではカプチーノの吉崎久善選手が優勝。35. B2クラスは千葉睦宏選手が優勝。36. B6で3位獲得の佐藤清貴選手。37. B5で3位入賞の大塩博選手。38. ノートの西村一男選手はB2で3位獲得。39. B4クラスは今野豊選手が優勝。

プのゴール直前。コンマ09秒差で和光選手が、川崎選手を振り切ったのだ。敗れて悔しそうかと思いきや、川崎選手の表情には笑顔が。今季初優勝の和光選手曰く、「(川崎)師匠に教えられた通り走ったら、うまく抜けました!」と。そういう理由だったわけだ。

今季2回目の2ヒート開催となった、シリーズ第3戦のGR 86/BRZレースは、まずプロフェッショナルシリーズは阪口良平選手が完全制覇。2ヒートとも谷口信輝選手を完璧に封じ込んだ。「やっぱりポールを奪えたのが、いちばん効きましたよね。最初から最後まで、ずっときついレースでしたが、僕はずっと落ち着いて走

れました」と阪口選手。クラブマンシリーズEXPERTクラスもまた、松井宏太選手が2ヒートとも一度もトップを譲らず。同シリーズOPENクラスでも、安藤正明選手が2ヒート制覇に成功。第1ヒートは志賀俊方選手を僅差で抑えたが、第2ヒートは約6秒差の圧勝だった。

ネットカップ ヴィッツレース東北シリーズ第2戦は、デバマン石渡選手を8周目にかわした、Candy竹川選手が初優勝を飾っている。

今季初開催となるサーキットトライアルは、B6クラスの原勝人選手が総合優勝。第1ヒートのファーストアタックで記録したタイムで逃げ切りを果たし、温度の上がった第2ヒートは

1周でアタックを終えていた。「去年までクルマがずっと調子が悪く、悔しい思いをしていたので、今年はしっかり直してきてバッチリでした! 去年も初戦は勝たせていただいたんですが、そこからの3戦全部、佐藤(清貴)さんにやられていたので。ただ、今日は佐藤さんのクルマもターボの調子が悪かったようなので、治ったらどうなるか(笑)」と原選手。その佐藤選手は熊谷秀明選手に次ぐ3位だった。

B5クラスでは門馬勇人選手が優勝。しかし、「自分の中では納得いかなかったんで……。タイヤのグレードを上げたのに、タイムが上がらなかったのは、腕が悪いから」と反省することしきり。それでもクラス2位の森田正穂選手にコンマ7秒の差をつけていた。

B4クラスは「皆さん、紳士的な走りで行くやすくて良かったです。今日の走りは85点ぐらい。新しく履いたタイヤで走って、まあまあだったので良かったです。トラブルもなかったし、満足しています」と語る今野豊選手が優勝。総合でも8位につけた。B1クラスでは吉崎久善選手が優勝し、2位には中澤伸幸選手がつけた。



40. F4第2戦表彰台の皆さん。41. F4第3戦表彰台の皆さん。42. S-FJ表彰台の皆さん。43. FIT 1.5 チャレンジカップ表彰台の皆さん。44. ロードスターカップ表彰台の皆さん。45. 86/BRZ オープンクラス表彰台の皆さん。46. 86/BRZ エキスパートクラス表彰台の皆さん。47. 86/BRZ プロシリーズ表彰台の皆さん。